

座王シリーズ
6輪車いす

屋内用

N I S S I N

座王
Z A O U

TRZ-021-03

NA-506W

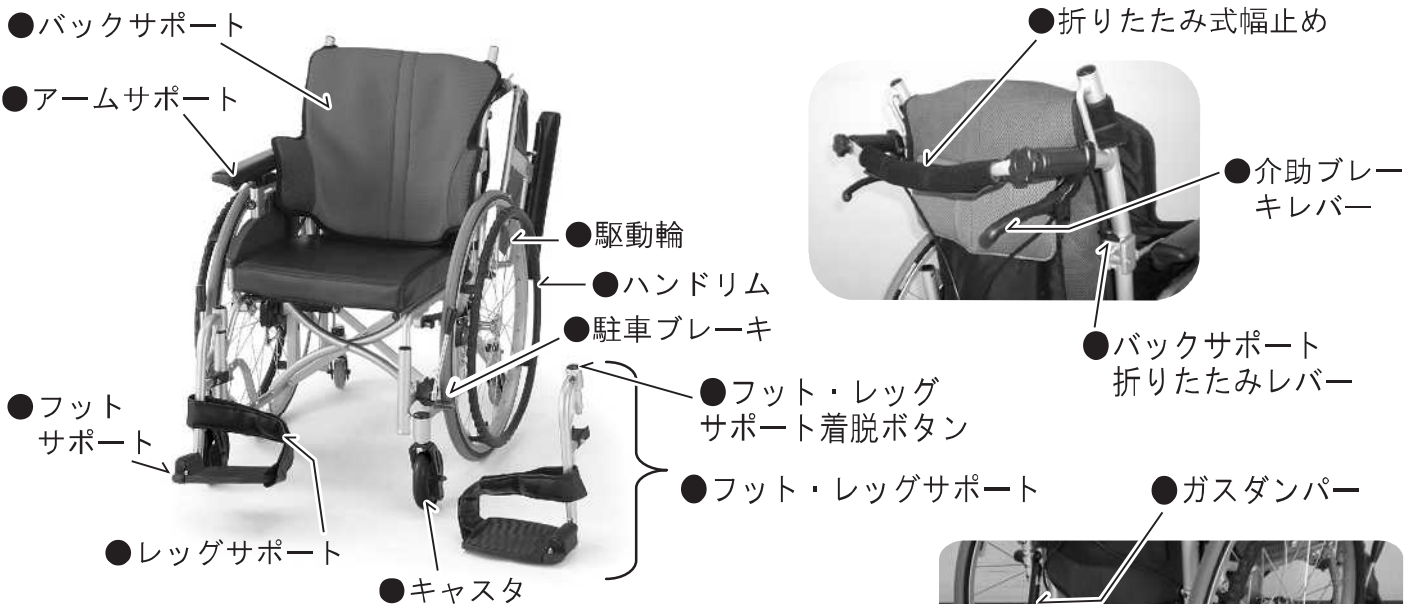
取扱説明書

この度は、製品をお買い上げ頂きまして、まことにありがとうございます。製品を安全、快適にご使用いただくための大切な内容が記載されております。ご使用前に必ずお読みください。
なお、保証書も掲載致しておりますので、大切に保管してください。



目次はP18に掲載しております。

各部の名称



出荷時は運送時の安全の関係で折りたたみ式幅止めが本体からはずしてあります。折りたたみ式幅止めに装着してからご使用ください。装着のしかたにつきましてはP2をご覧ください。



出荷時は運送時の安全の関係でフットサポートが外側に回転して収納されている場合があります。フットサポートの戻し方につきましては、P6をご覧ください。

●後方キャスタ



仕様

(シート幅40cm仕様の場合)

- 全長：97cm (94cm) ●全幅：58cm (31cm) ●全高：81～85cm (61～65cm)
- シート幅：40cm ●臀部スペース有効幅：シート幅－4cm ●シート奥行：40cm
- 前座高：38・40・42cm ●後座高：36・38・40cm
- バックサポート高：45cm ●アームサポート高：24・26・28・30cm
- 手押しハンドル高：71～75cm ●キャスト：5インチ ●主輪：22インチ<25－501>
- 座クッション厚：5cm ●重量：16.3kg【座クッション含まず】
- 耐荷重：100kg【積載物を含む】

※寸法の()は折りたたみ時の値です。



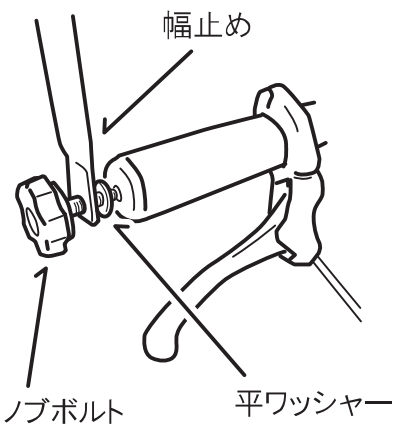
使用前に折りたたみ式幅止めを装着してください。

製品の出荷時には、運送時の安全のため、折りたたみ式幅止めが車いすからはずしてあります。下記の要領で車いすの手押しハンドルに折りたたみ式幅止めを設置してから使用をしてください。

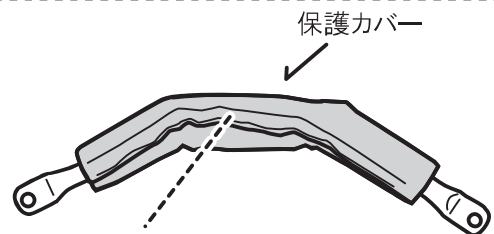
六角形のナットのついてる面が車いす後方を向くように取付けます。



プラス形のミノのあるボルト頭部のついてる面は車いすの前方を向くようにします。



上図のように、ノブボルトの面と平ワッシャーの間に幅止めを挟むようにして、ノブボルトでグリップのネジ穴にしっかりと締めこんでください。



面ファスナーでしっかりと貼り合わせます。



取付け説明のイラストでは、わかりやすくするために保護カバーの絵を省略しておりますが、実際には、上図のように、保護カバーを幅止めの中央部にしっかりと巻きつけた状態で使用をしてください。

車いすの拡げかた

- 1** 手押しハンドルを持って軽く左右に拡げてください。



- 2** 片方の手押しハンドルを持ち上げるように反対側の座面下のパイプ部を下の方へ押し下げます。



注意



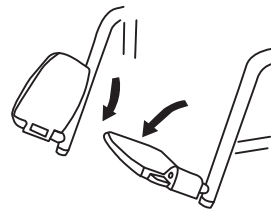
押し下げる際、座面パイプより下に手や指を入れないでください。危険です。

3



折りたたみ式幅止めを、下方方向にしっかりと手で押さえて、バックサポートパイプを固定させます。

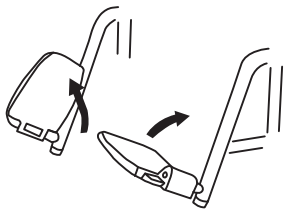
4



フットサポートプレートを下方へ回転させるようにセットします。使用者が車いすに座ってから行うのが一般的です。

車いすの折りたたみかた

1



フットサポートプレートを上方へ回転させて収納します。

2



折りたたみ式幅止めを、上方方向に上げて、バックサポートパイプの固定を解除します。

3



座面シートを持ち上げます。

4



手押しハンドルを持って左右から押し縮めるように、折りたたんでください。

バックサポートの折りたたみかた・固定のしかた

折りたたみかた



手押しハンドルを前方に押し、一方の手でバックサポート折りたたみレバーを下に押しながら、手押しハンドルを手前に引くように少し折り曲げます。反対側も同様の手順で少し折り曲げてください。続いて、左右同時に折りたたみます。

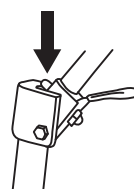
固定のしかた



手押しハンドルを握り、上方へ引き起こすように持ち上げてください。左右のスライドピンが「カチッ」とロックされたことを必ずご確認ください。



注意
警告



- 矢印の部分に手や指を置かないでください。
- 矢印の部分にバックサポートシートをはさみこまないように注意してください。
- 車いすに乗る際は、完全にバックサポートが固定されている事を確認してから、座ってください。

駆動輪の操作のしかた



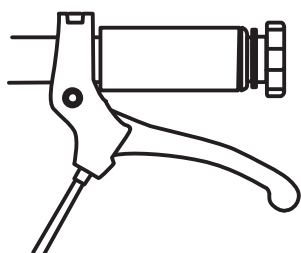
- ・乗車者がハンドリムを握り、ハンドリムを前に押ししたり、後ろへ引いたりすることで、前進又は後退します。
- ・走行中にブレーキをかけるには、ハンドリムを握って駆動輪を止めます。



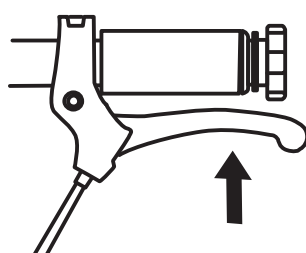
注意

タイヤを握って漕ぐと、ブレーキやフレーム、アームサポート等の間で指を挟むことがありますので注意してください。

介助ブレーキのかけかた



解除時



介助ブレーキ

左右の介助ブレーキレバーを同時に握ると介助ブレーキがかかります。



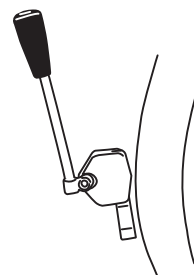
禁止

介助ブレーキは、駐車ブレーキとして使用することはできません。駐車目的では使用しないでください。

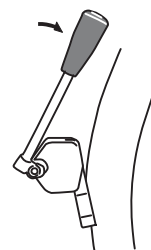
駐車ブレーキのかけかた

- レバー先端のノブを手で後方に引くと駐車ブレーキがかかります。レバーを前に戻した状態が解除です。

解除時



駐車



注意
警告

- ・駐車ブレーキは左右両輪ともしっかりとかけてください。片側だけのブレーキをかけた状態で駐車をしないでください。
- ・しっかりブレーキをかけていても、乗降時などに、横から強い力が加わると車いすは簡単に動いてしまいますので、十分注意してください。
- ・坂の途中では駐車しないでください。やむを得ず駐車する場合は2輪以上に車止めをしてください。
- ・ブレーキレバーに体重をあずけたり、足でレバー操作するなど、レバーに強い力がかかる行為はしないでください。
- ・レバー操作は、ブレーキシューやタイヤに手指が当たらないように注意しながら、しずかに行ってください。

アームサポート高の調整のしかた



調整用ボタン

- アームサポートを持ち、調整用ボタンを引いて、ロックを解除し、アームサポートの高さをゆっくりと上下させ、高さを調整します。
- 調整用ボタンがロックされれば調整は完了です。



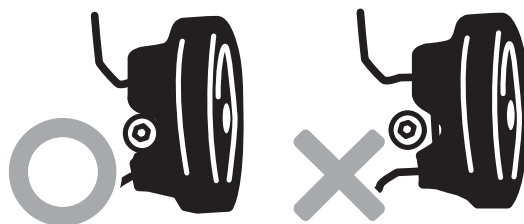
注意

- ・手指等を挟まないように注意してください。
- ・アームサポートが調整用ボタンでしっかりと固定されていることを確認してください。



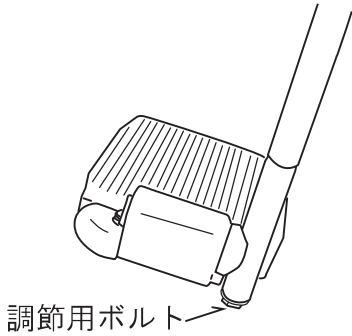
注意
警告

アームサポート調整用ボタンがしっかりかかっていることを確認してください。使用中にロックがはずれると、転倒やケガをするおそれがあります。



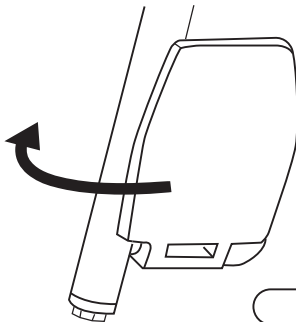
フットサポートの調節のしかた

- フットサポート下端の調節用ボルトを13mmのスパナで緩めて、高さを合わせてから、調節用ボルトをしっかり締め付けます。（上下にスライドしにくい場合は、プラスチック製ハンマーなどで、調節用ボルトを下からたたくようにショックをあてると緩みます。）



注意

- ・調節後はしっかりと調節用ボルトを締めて固定してからご使用ください。
- ・フットサポートを下げすぎると、段差やスロープ等でつまずくことがあります。フットサポートの最下端部で、地面から5cm以上あけてください。
- ・フットサポートに腰掛けたり、登ったりしないでください。

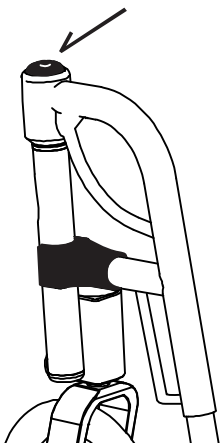


調節用ボルト

出荷時はフットサポートを、外側後方に回転して収納してある場合があります。調節用ボルトを緩めて、前方に回転させ、高さを調節してから、調節用ボルトをしっかり閉めて固定してください。

フット・レッグサポートの着脱のしかた

フット・レッグサポート着脱ボタン



はずしかた

フット・レッグサポート着脱ボタンを押しながら、フット・レッグサポートを上方に引き抜くと、フット・レッグサポートをはずすことができます。



取付けかた

フット・レッグサポート着脱ボタンを押しながら、フット・レッグサポートを上方から奥までさし込みます。しっかりとロックがかかり、フット・レッグサポートがメインフレームに固定されたことを確認してください。



注意
警告

- ・手指等を挟まないように注意してください。
- ・フット・レッグサポートの着脱はゆっくりと、静かにおこなってください。
- ・使用前には、フット・レッグサポートのロックがしっかりとかかって、フット・レッグサポートがメインフレームに確実に固定されていることを確認してください。

フット・レッグサポートの車いす後方への収納のしかた

取り外したフット・レッグサポートをバックサポート後方のパイプに差し込んで収納することができます。



フット・レッグサポート着脱ボタンを押しながら、バックサポート後方のパイプにフット・レッグサポートをさし込むことができます。はずすときは、フット・レッグサポート着脱ボタンを押しながら上方に引き抜きます。



- ・手指等を挟まないように注意してください。
- ・フット・レッグサポートの着脱はゆっくりと、静かにおこなってください。
- ・収納時には、フット・レッグサポートのロックがしっかりとかかって、フット・レッグサポートがパイプに確実に固定されていることを確認してください。

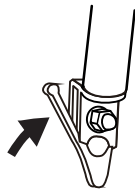
※左右のフット・レッグサポートは右後方・左後方のどちらにも取付け可能ですが、右側用のフット・レッグサポートを左後方に、左側用のフット・レッグサポートを右後方に収納するとフットサポートが駆動輪にあたりにくくなり、より便利です。

アームサポートの跳ね上げのしかた・戻しかた

跳ね上げのしかた



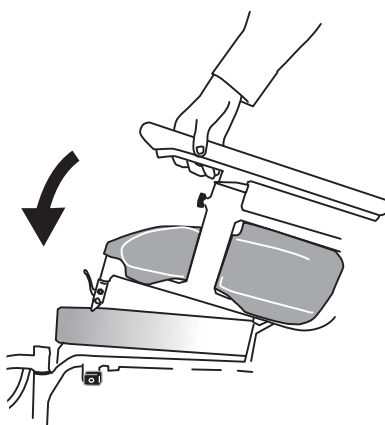
アームサポート
跳ね上げプラグ



アームサポート先端のアームサポート跳ね上げプラグのレバーを後方に倒すと、アームサポートの固定（ロック）を解除することができます。ロックを解除して、アームサポートを上回転させるように上げてください。



戻しかた

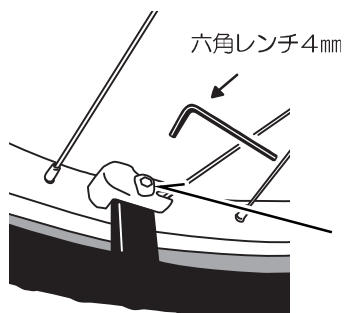


戻すときは、アームサポート跳ね上げプラグを握らずに、そのまま「カチッ」というまでアームサポートを押し下げてください。



- ・アームサポートの跳ね上げは必ず駐車ブレーキをかけて行ってください。
- ・アームサポートを跳ね上げた状態で車いすを動かさないでください。
- ・跳ね上げて移乗する際は必ず、アームサポート跳ね上げプラグがバックサポートパイプの前に出ない位置まで跳ね上げてください。
- ・戻すときには、アームサポートと座面の間やジョイント部に、身体や衣服が挟まらないように注意してください。

ハンドリムの着脱のしかた

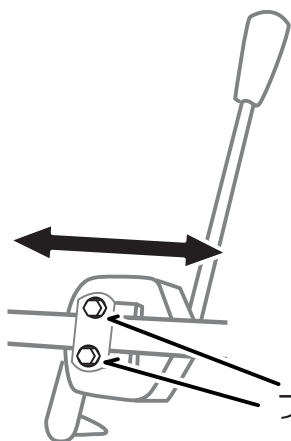


ハンドリムと駆動輪を固定している、ハンドリム固定ボルトを4mmの六角レンチで緩めてははずすと、ハンドリムを駆動輪からはずすことができます。はずしたハンドリムを取付ける際は、ハンドリムを元通りにセットし、4本のハンドリム固定ボルトをしめて、しっかりと固定します。



ハンドリムの着脱につきましては、専門知識と技術を持った販売店にご相談下さい。

駐車ブレーキの調節方法（座面高を変更した場合は必ず調節してください）



- ① 駐車ブレーキのブレーキ取付けボルトを緩めます。
- ② ブレーキがしっかりかかる位置までブレーキ本体をずらします。
- ③ ブレーキ取付けボルトをしっかり締めて固定し、完了です。



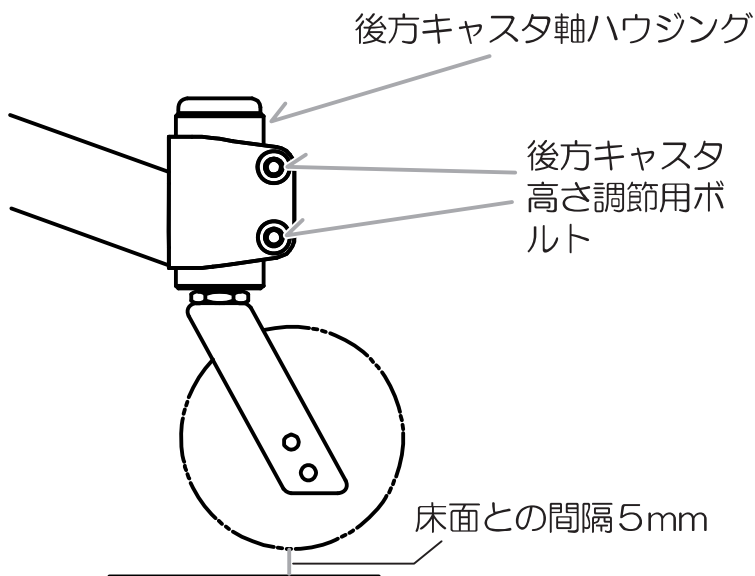
**注意
警告**

使用前には、駐車ブレーキがしっかり効くかどうか、駐車ブレーキがブレーキ取付ボルトとブレーキ取付プレートでしっかり固定されているかどうか、必ずご確認ください。



ブレーキの調節につきましては、専門知識と技術を持った販売店にご相談・ご依頼ください。

後方キャスタ地上高の確認（座面高を変更した場合は必ず実施してください）



NA-506Wの後方キャスタ輪は、車いす後方に荷重をかけていない状態で床面から5mm程度浮いている高さで使用してください。

後方キャスタ地上高の調節のしかた

後方キャスタ高さ調節用ボルトを緩め、後方キャスタ軸ハウジングを上下にずらし、後方キャスタの高さを調整します。後方キャスタ輪が床面から5mm程度浮くように調節してから、後方キャスタ高さ調節用ボルトを締めて固定してください。



**注意
警告**

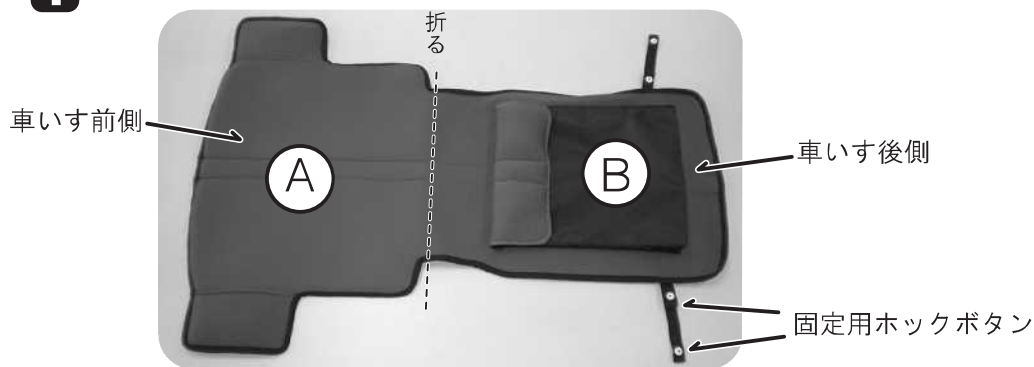
使用前には、後方キャスタの高さが適切かどうか、後方キャスタハウジングが高さ調節用ボルトでしっかり固定されているかどうか、必ずご確認ください。



後方キャスタの高さの調節につきましては、専門知識と技術を持った販売店にご相談下さい。

バックサポートシートの取付かた

1



バックサポートシートを上写真のA面がインナーベルトの前側、B面がインナーベルトの後ろ側になるように、かぶせます。

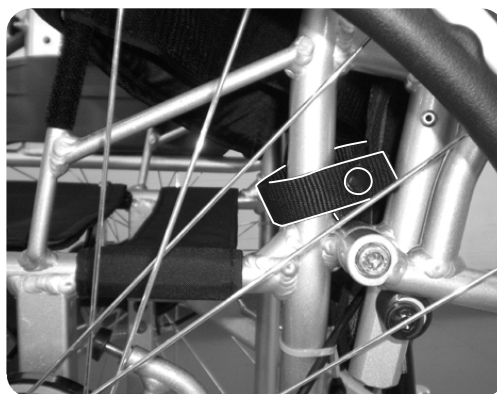
折った部分がインナーベルト（胸郭支持ベルト）のトップにあたるようにかぶせてください。

胸郭支持ベルト



2

左右のホックボタンのついたベルトを、バックパイプにまわし、ホックボタンでとめて、左右とも固定してください。



注意

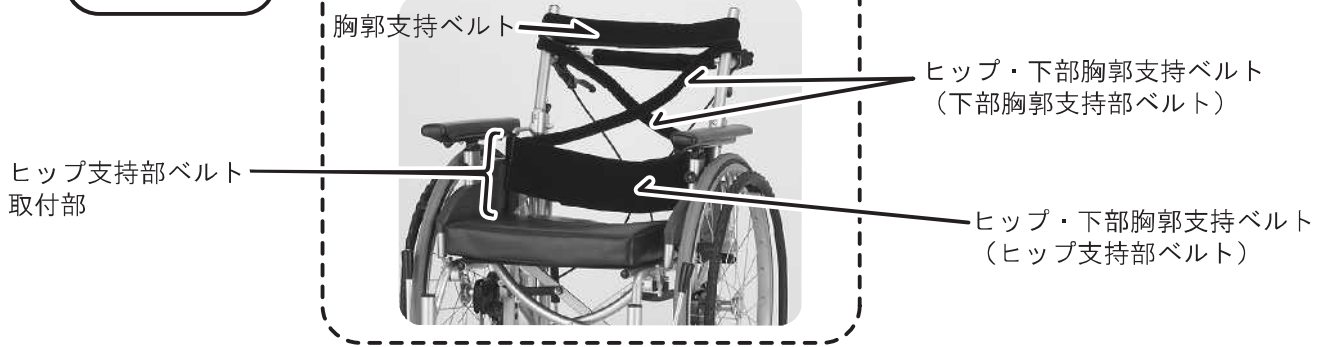
- ・バックサポートシートの取付けは駐車ブレーキをかけて行ってください。
- ・車輪のスポークや各部で手指等を挟まないように注意してください。

取付け時



バックサポートインナーベルトの基本設定

各部名称



ヒップ支持部の設定

ヒップ支持部の設定は「骨盤を起こす場合」「骨盤が寝ている場合」の2種類あります。ご使用者の姿勢に合わせて選択してください。

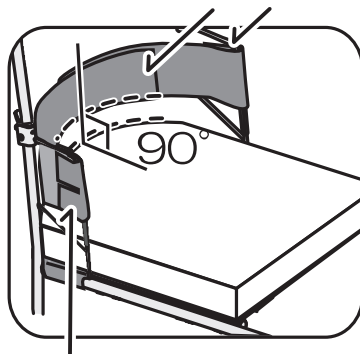
骨盤を起こす場合

ヒップ支持部ベルトの上面を、ヒップ支持部ベルト取付部の一番上の部分にあわせて、しっかりと貼り合わせます。



ヒップ支持部ベルトの赤い縫い糸が正面を向くように取付けます。

しっかりと貼り合わせる。

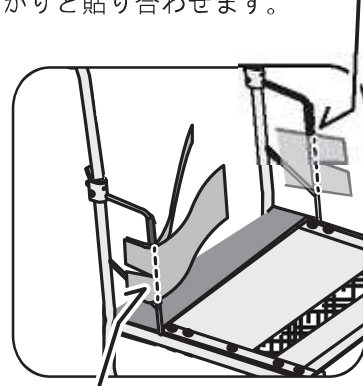


しっかりと貼り合わせる。

座クッション奥側のカーブ形状と、貼り合わせたヒップ支持部のカーブ形状が同じになるように設定します。また、座クッション面に対し、ヒップ支持部ベルト面がほぼ垂直(約90°)になるように設定します。

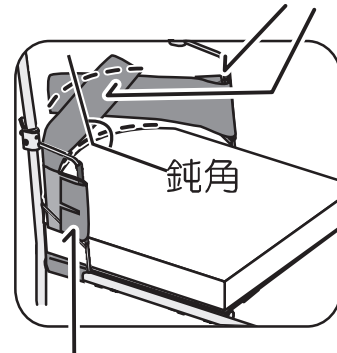
骨盤を寝かす場合

ヒップ支持部ベルトの下面を、ヒップ支持部ベルト取付部の一番下の部分にあわせて、しっかりと貼り合わせます。



ヒップ支持部ベルトの赤い縫い糸が正面を向くように取付けます。

しっかりと貼り合わせる。



しっかりと貼り合わせる。

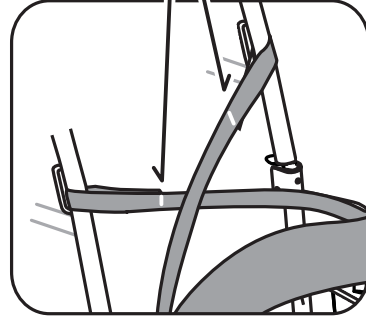
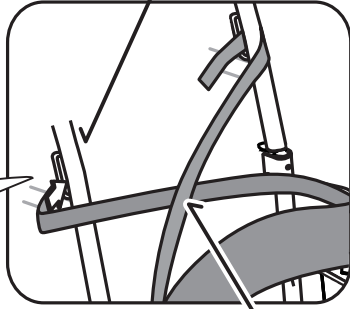
座クッション奥側のカーブ形状と、貼り合わせたヒップ支持部のカーブ形状が同じになるように設定します。また、座クッション面に対し、ヒップ支持部ベルト面が鈍角(90°超)になるように設定します。

下部胸郭支持部の設定

下部胸郭支持部ベルトをバックサポートパイプの「コ」の字形金具の中に通します。

ベルトの先端部をベルト裏面の赤い縫い糸の位置に合わせ、しっかりと貼り合わせます。

『コ』の字形金具の中に通す

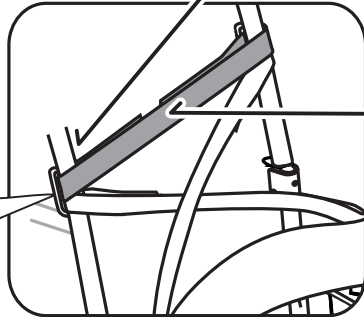


ベルトの重なりはどちらが上でも可です。

胸郭支持部の設定

胸郭支持ベルトをバックサポートパイプの「コ」の字形金具の中に通します。
(下部胸郭支持部ベルトのすぐ上に取り付けます。)

『コ』の字形金具の中に通す



胸郭支持ベルトにたるみがないように張り、ベルト裏側でしっかりと貼り合します。



注意 警告

- ・ 設定後は、各ベルトが面ファスナーでしっかりと固定され、フレームからはずれないことを確認してください。
- ・ インナーベルトはすべてを正しく取付けてください。一部のベルトを省いたり、説明書記載と異なるつけ方をして使用したりしないでください。
- ・ ベルトが破れていたり、面ファスナーがしっかりと効かなくなっている場合などは使用を中止し、販売店に部品交換を依頼してください。



インナーベルトの設定につきましては、専門知識と技術を持った、医師、療法士、福祉用具専門相談員、販売店にご相談ください。

バックサポートの張り具合の調整のしかた



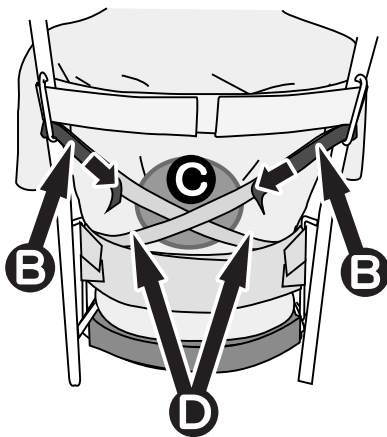
バックサポートシートを装着したまま、バックサポート固定用フックボタンを外し、バックサポートシートの後ろ側をめくり上げて、インナーベルトを調整します。

インナーベルトの調整のしかた



説明イラストでは、調整方法を分かりやすくするために、折りたたみ式幅止めやバックサポートシートを省略しています。実際に調整する際は、折りたたみ式幅止めに正しく設置し、バックサポートシートを装着して、バックサポートシートの後ろ側だけをめくり上げた状態で調整をしてください。

1 下部胸郭支持部ベルトを調整します。



Bのベルトを引張り、C部の隙間をなくします。

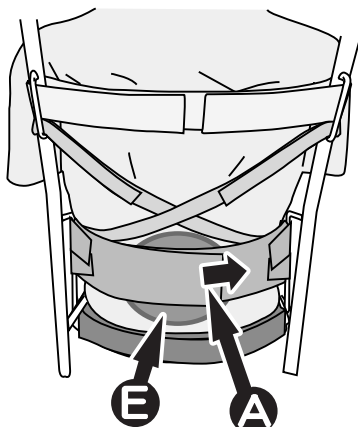


C部の隙間がなくなった状態から、さらにBのベルトを1～2 cm引張ります。



BのベルトをDのベルトにしっかりと貼り合わせて固定します。

2 ヒップ支持部ベルトを調整します。



お尻とベルトAの間に隙間がある場合。

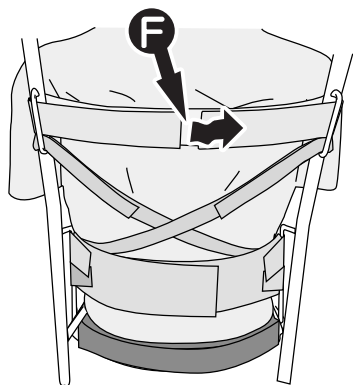


E部の隙間がなくなるように、Aのベルトの張りを調整します。ベルトの合わせ面を1 cm程度きつめに張り、しっかりと貼り合わせて固定します。

お尻とベルトAの間に隙間がない場合は調整は不要です。

※体が後ろに傾きすぎている場合は、Aのベルトをゆるめ、お尻の位置を後ろにずらすことで、座る角度を変更することができます。

3 胸郭支持ベルトを調整します。



ベルトの当たりが強い場合。



Fのベルトを1～2cmゆるめて、しっかりと貼り合わせて固定します。

※ゆるめすぎると体幹がくずれやすくなりますのでご注意ください。

ベルトの当たりが気にならない場合は調整は不要です。

4 全てのインナーベルトが面ファスナーでしっかりと固定されていることを確認し、めくり上げていたバックサポートシートを元にもどします。



バックサポートシート左右のホックボタンのついたベルトを、バックパイプにまわし、ホックボタンでとめて、左右とも固定してください。



注意 警告

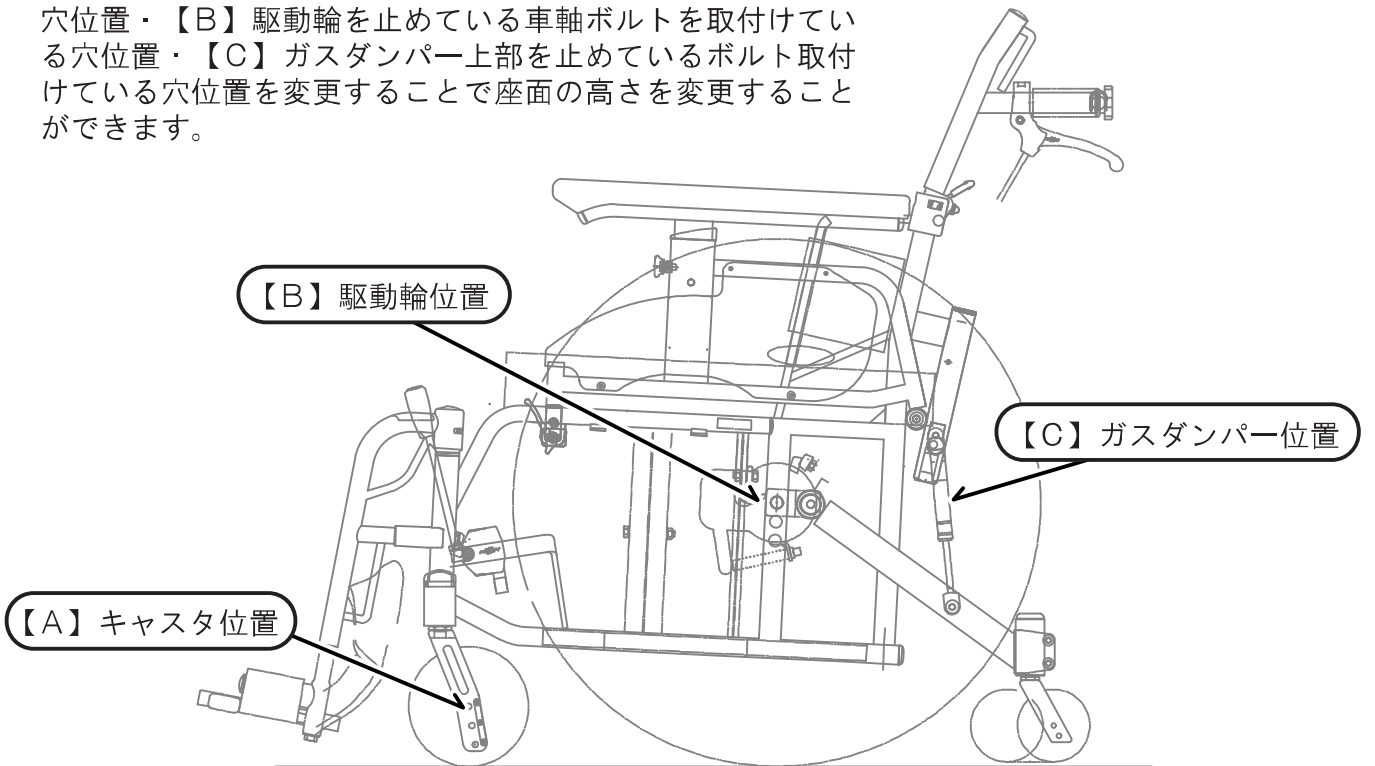
- ・インナーベルトの調整は、必ず、手順通りに行ってください。一度に全てのベルトの面ファスナーをはずすと、乗車者が落下しケガをするおそれがあります。
- ・バックサポートの張り調整は、必ず駐車ブレーキをかけて行ってください。
- ・ベルトが破れていたり、面ファスナーがしっかりと効かなくなっている場合などは使用を中止し、販売店に部品交換を依頼してください。



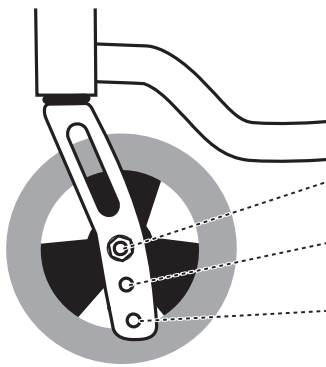
バックサポートの張り具合の調整につきましては、専門知識と技術を持った、医師、療法士、福祉用具専門相談員、販売店にご相談ください。

座面高の調節について

【A】キャスト車輪を止めている車軸ボルトを取付けている穴位置・【B】駆動輪を止めている車軸ボルトを取付けている穴位置・【C】ガスダンパー上部を止めているボルト取付けている穴位置を変更することで座面の高さを変更することができます。



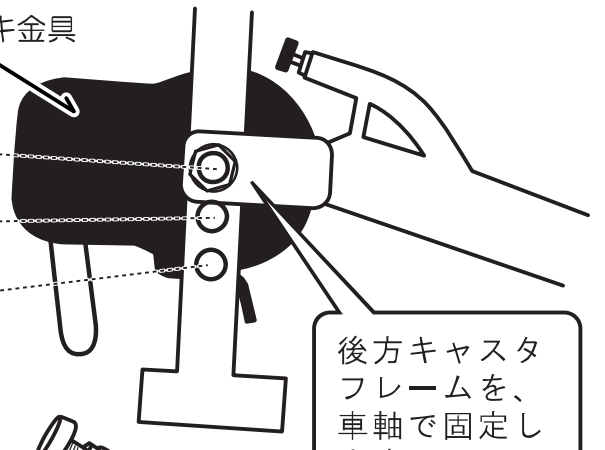
キャスト



- ①前座高38cm/後座高36cm
- ②前座高40cm/後座高38cm
- ③前座高42cm/後座高40cm

主輪

バンドブレーキ金具



後方キャストフレームを、車軸で固定します。

車いす内側

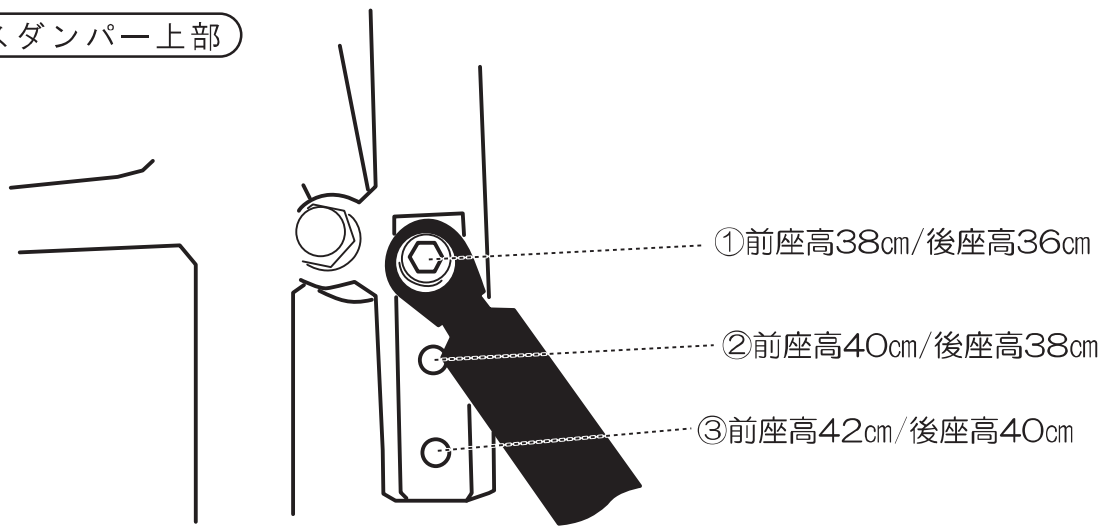


車いす外側

駆動輪車軸ボルトを通します。

バンドブレーキ金具と後方キャストフレームの間に、プレートを1枚はさみこみます。

ガスダンパー上部



平ワッシャー

ボルト

カラー

ガスダンパー上部ワッシャー・カラーの取付図

ガスダンパー上部の取付けには、ワッシャーの他に、カラーも使用します。

キャスタ輪の車軸・駆動輪の車軸・ガスダンパー上部は①・②・③のうちの同じ番号の位置に設定してください。

※座面高を変更する場合は、駐車ブレーキの調節と後方キャスタ地上高の確認も必要となります。



禁止

キャスタ輪と駆動輪の車軸、ガスダンパー上部を①・②・③の番号が異なる組合わせで設定しないでください。正常な走行ができなくなり危険です。



注意
警告

- ・ボルト・ナット類はしっかり締めてください。車輪や部品脱落し、事故につながるおそれがあります。
- ・車軸ボルトのワッシャー類は元通りにセットしてください。
- ・座面高の調節時には、駐車ブレーキの調節と後方キャスタの地上高の確認も必ず実施してください。（P8参照）



座面高の変更につきましては、専門知識と技術を持った販売店にご相談下さい。

使用前点検（必ず行ってください）

- 介助ブレーキがしっかり効くかどうかご確認ください。
- 駐車ブレーキがしっかり効くかどうかご確認ください。
- 介助ブレーキのワイヤーの張り具合が適当かどうか点検し、正常に動作するかどうかご確認ください。
- ネジ・ボルトのゆるみがないか、フレームのガタつきがひどくないかご確認ください。
※特に、駐車ブレーキの取付け部や、車輪軸部は確実に確認してください。
- シート・ベルトに亀裂や破れがないかご確認ください。
- 駆動輪タイヤの空気圧は適切かどうかご確認ください。（不足している場合は補充してください）
【適正空気圧】100PSI 690kPa 6.9BAR
- 駆動輪タイヤの溝がなくなりかけていないか、タイヤに亀裂がないか、チューブがパンクしていないかご確認ください。
- 車輪のガタ・緩み・曲がり等がないかご確認ください。
- 前輪キャスト輪及びキャストフォークに変形、ひび割れ等がないかご確認ください。
- 前輪キャストが緩んでいないか、抜け落ちていないかご確認ください。
- 後方キャスト輪及びキャストフォークに変形、ひび割れ等がないかご確認ください。
- 後方キャストが緩んでいないか、抜け落ちていないかご確認ください。
- 後方キャストの高さは適切かどうか（P8参照）ご確認ください。
- 左右の前方キャスト輪と左右の駆動輪がしっかりと接地しているかご確認ください。
- 折りたたみ式幅止めを手押しハンドルにとめている左右のノブボルトがしっかりと締まっているか、折りたたみ式幅止め中央の可動部にカバーがしっかりと巻かれているか、ご確認ください。
- 折りたたみ式幅止めで、バックサポートパイプがしっかりと固定されているかご確認ください。
- 各部パーツの変形、破損がないかご確認ください。
- ガスダンパーにオイルが垂れていないか確認してください。オイルが垂れている場合は使用を中止し



警告

製品に異常がある場合は使用を中止し、すみやかに販売店に修理・部品交換・調整をご依頼ください。

メンテナンス・保管方法

- ボルトの緩み、フレームのガタ、タイヤの空気圧の減少など目視や簡単に手で触って分かるようなチェックは、日常的に行ってください。
- 各部のメンテナンス（調節・補修・修理・部品交換等）はお買い上げの販売店にご依頼ください。
- シートが汚れた場合は中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取り、その後水で濡らした布で洗剤をきれいに拭き取ってください。汚れを取ったあとは、完全に乾燥させてからご使用ください。生乾きでの使用はカビや異臭の原因となります。
- 屋内の湿気が少ない場所に保管してください。雨に濡れたり、湿気の高いところには保管しないでください。
- 直射日光の当たる場所や高温多湿な場所での長期保管は避けて下さい。



注意・警告

- NA-506Wは屋内用の車いすです。屋外での使用はしないでください。
- 各部のガタつきやネジのゆるみ、タイヤのすりへり、その他の不具合により、思わぬ事故につながる可能性があります。定期的に取り扱い業者のチェックを受け、不具合がないか確かめてください。
- 使用者の体調が著しく低下しているときは、十分に注意して使用してください。
- からだに合わない状態での使用はしないでください。
- 折りたたみ式幅止めを取り付けない状態での使用はしないでください。また、折りたたみ式幅止め中央可動部のカバーがはずれた状態での使用はしないでください。
- シートの張り調整が不適切な状態での使用はしないでください。ベルトを極端にきつく張りすぎていても、車いすの折りたたみ動作や可動に悪影響を及ぼし、破損や事故につながるおそれがあります。
- 各部の調整・調節を行うときは、必ず駐車ブレーキをかけた状態で行ってください。
- 走行時には地面に凹凸や障害物がないか十分に注意してください。走行中、各部に凹凸や障害物が引っかかると、転倒や製品の破損のおそれがあります。
- フレームの座面下側や、車輪、各部の隙間等に手を入れしないでください。各部が動いたり、でっばりに手を触れたりすると、ケガのおそれがあります。
- 倒れかかるような座り方や、身を乗り出すような座り方はしないでください。バランスをくずして転倒することがあります。
- 坂面や傾斜面では特に注意して操作してください。バランスをくずして転倒することがあります。
- エスカレーターの入出口付近、エレベーター、自動ドア等の付近で使用する際は注意してください。
- 手押しハンドルや各部フレームなどに手荷物等を掛けないでください。荷物等が各部に当たり誤動作をしたり、バランスをくずして転倒する恐れがあります。
- 折りたたみ式幅止めを手押しハンドルにとめている左右のノブボルトはしっかりと締めて使用してください。
- フットサポートの上に立たないでください。製品の破損だけでなく、転倒による事故のおそれがあります。
- 持ち運びの際は、メインフレーム以外を持たないでください。（アームサポートやフットサポート、手押しハンドル、シート等を持って運ぶと、製品の破損や事故につながる恐れがあります。）
- 坂道での駐車はしないでください。やむを得ず駐車する場合は2輪以上に車止めをしてください。
- 本書記載以外の使用はしないでください。
- 踏台や脚立・歩行器のかわりに使用しないでください。
- 子供に操作をさせないでください。
- 二人乗りなど多人数での使用はしないでください。
- フレームの折れ、曲がり、シート・ベルト類の破損など壊れた状態での使用はしないでください。（使用を中止し、すみやかに販売店へ修理、部品交換をご依頼ください。）
- 乗車者・介助者とも、車いす使用時には靴をはいてください。はだしで車いすを使用しないでください。思わぬケガのおそれがあります。
- 体重が製品の耐荷重を超える方の使用はしないでください。
- 周辺に小さなお子様がいるときは、指や手足を挟むなどして、ケガをするおそれがありますので十分にご注意ください。
- 製品をゆすったり、踏んだりなどの乱暴な取扱いをしたり、落としたり、たたいたりなどの強い力や衝撃を与えないでください。製品が破損することがあります。
- 水にぬれた場合、そのままにしておくとう製品に錆びやカビが出る場合があります。ぬれた場合は乾いた布ですみやかに拭きとってください。水中での使用はしないでください。
- 気温の差の激しい場所や異常に高温な場所（車中など）に製品を放置しないでください。フレームが痛むばかりでなく、熱くなったフレームで火傷をしたり、高温になったシートに座ることで体調に悪影響を与えることがあります。
- 改造や分解はしないでください。
- 当取扱説明書内に記載の寸法や重量の値には、製造の都合上、多少の誤差がありますのでご了承ください。
- 製品の改良・改善により、詳細において本書の内容と異なる場合があります。不明な事柄につきましては、販売店までお問合せください。

目次

P 1	．．．	各部の名称
P 2	．．．	仕様 使用前に折りたたみ式幅止めを装着してください
P 3	．．．	車いすの拡げかた 車いすの折りたたみかた
P 4	．．．	バックサポートの折りたたみかた・固定のしかた 駆動輪の操作のしかた 介助ブレーキのかけかた
P 5	．．．	駐車ブレーキのかけかた アームサポート高の調整のしかた
P 6	．．．	フットサポートの調節のしかた フット・レッグサポートの着脱のしかた
P 7	．．．	フット・レッグサポートの車いす後方への収納のしかた アームサポートの跳ね上げのしかた・戻しかた
P 8	．．．	ハンドリムの着脱のしかた 駐車ブレーキの調節方法（座面高を変更した場合は必ず調節してください） 後方キャストの地上高の確認（座面高を変更した場合は必ず調節してください）
P 9	．．．	バックサポートシートを取付けかた
P 10	．．．	バックサポートインナーベルトの基本設定
P 12	．．．	バックサポートの張り具合の調整のしかた
P 14	．．．	座面高の調節について
P 16	．．．	使用前点検（必ず行ってください） メンテナンス・保管方法
P 17	．．．	注意・警告
P 18	．．．	目次 ウレタン素材には寿命があります
P 19	．．．	保証規定・品質保証書



ウレタン素材には寿命があります。

- クッション性に優れているウレタン素材は、使用頻度にかかわらず経年変化を起し、割れ、ヒビ、崩れを起し、破損するおそれがあります。
- 特に通気の悪い場所での長期間の保管は避けてください。
- 割れやヒビ、崩れ等の症状が発生した場合は使用を中止し、販売店に部品交換を依頼してください。



アームサポートパッド

など

保証規定

I. 保証の範囲

1. 保証期間中に品質の不完全に基づく故障を生じた場合には下記の保証書により無料で修理いたします。
2. 保証期間はご購入後1年間です。
3. 但し、次の場合は保証期間中でも有料になります。
 - (a) 取扱い過誤による故障。
 - (b) 製品に改造を加えた場合の故障。※純正品以外の部品を使用した場合も含まれます。
 - (c) 天災、地変等による故障ならびに損傷。
 - (d) 消耗部品、タイヤなど。
 - (e) 保証書にお買い上げ店名の記載、捺印のない場合。
 - (f) 保証書のご提示がない場合。
4. 以上の保証は本製品を日本国内に設置した場合に限ります。
5. この保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

II. サービスのご用命

保証期間中、万一故障が生じた場合はご購入の販売店へ保証書を添えてお申し出ください。

III. ご注意

保証書は再発行しませんので大切に保管してください。

品質保証書

本商品については上面記載の「保証規定」により正常な使用状態において故障が生じた場合に限りご購入日より「1年間」無償にて修理致します。

機種	NA-506W		
お客さま	ご住所	〒	
	(フリガナ) 氏名	TEL	
お買い上げ	月	日	年
販売店	見本		
総販	見本		
製造元	日進医療器株式会社 〒481-8681 愛知県北名古屋市沖村権現35-2 TEL <0568>21-0635(代) FAX <0568>23-2787		

日進医療器株式会社

本社	〒481-8681 愛知県北名古屋市沖村権現35番地の2 TEL<0568>21-0635(代) FAX<0568>23-2787
東京営業所	〒112-0002 東京都文京区小石川 1-21-14 TEL<03>3814-0923(代) FAX<03>3814-4644
大阪営業所	〒533-0013 大阪府大阪市東淀川区豊里 6-16-10 TEL<06>6323-8265(代) FAX<06>6326-2554
九州営業所	〒812-0876 福岡県福岡市博多区昭南町2丁目3-8 TEL<092>513-5036(代) FAX<092>513-5038